

R

KANSAI
UNIVERSITY
NEWSLETTER

Man is a Thinking Reed.

Reed

No. **79**

December, 2024

関西大学ニュースレター

発行日：2024年(令和6年)12月20日

発行：関西大学 総合企画室広報課

大阪府吹田市山手町3-3-35

〒564-8680 / TEL.06-6368-1121

www.kansai-u.ac.jp

関西大学が描く 持続可能な社会と教育

大学はいつでも若い力の挑戦と成長の舞台だ

■理事長・学長対談

芝井 敬司・関西大学 理事長

高橋 智幸・関西大学 学長



■理事長・学長対談 — 1

■リーダーズ・ナウ — 5

卒業生 — 吉本興業所属 芸人

ジャルジャル 後藤 淳平 さん 福徳 秀介 さん

光栄菊酒造株式会社 杜氏 山本 克明 さん

光栄菊酒造株式会社 取締役 田下 裕也 さん

在学生 — 文学部 4年次生 金丸 夢斗 さん

■研究最前線 / Research Front Line

集団の観点から高齢者の健康を研究

ICTも活用し健康寿命を延ばすまちづくり — 13

社会安全学部 — 中間 千香子 准教授

• Developing Communities to Extend Healthy Life Expectancy by Leveraging ICT

Faculty of Societal Safety Sciences

— Associate Professor Chikako Nakama

■トピックス [学内情報] — 17

文部科学省「大学の国際化によるソーシャルインパクト創出支援事業」に採択
社会変革担うグローバル「人財」育成へ ほか

■社会貢献・連携事業 — 18

関西大学にパタゴニアの「Worn Wear College Tour」が来訪

衣類を修理し、環境意識を向上

循環型社会について考えるきっかけを作る ほか

■関大ニュース — 19

第47回関西大学統一学園祭を開催 ほか



芝井 敬司——しばい けいじ

■学校法人関西大学第22代理事長。1956年大阪市生まれ。1978年京都大学文学部史学科(西洋史)卒業。1981年京都大学大学院文学研究科博士課程後期中途退学。1984年関西大学に着任。1994年文学部教授、2002年文学部長、2006年副学長、2016年学長を歴任。2020年より現職。学外の主な役職に、独立行政法人大学改革支援・学位授与機構評議員、公益財団法人私立大学退職金財団評議員、一般社団法人大学スポーツ協会理事など。

関西大学が描く 持続可能な 社会と教育

大学はいつでも
若い力の挑戦と成長の舞台だ

◆学内、学問にとどまらず、社会とつながる

——理事長再任、学長就任おめでとうございます。読者に向けてひと言をお願いします。

芝井 前々期に学長をさせていただいて、その後、理事長を4年間務めました。さまざまなプロジェクトが動き始めている中で、完遂のめどがつくまでは引き続き尽力したいという思いがあり、再任させていただくことになりました。

関西大学は学部生と大学院生合わせておよそ3万人が在籍しています。3万人という小都市の規模に匹敵します。この小都市を健全かつ適切に運営できるよう心くばりしていくのが、私の最も重要な役割だと思っています。

高橋 関西大学は社会とのつながりを大切にする大学です。教育・研究のみならずさまざまな角度から、地域の中で学生・教職員が共に活動し、あるいは企業の皆さんと現場で一緒に動き、社会と接点を持つことに努めています。それは本学の大きな力になっていると思います。この力を一層強め、学内にとどまるのではなく、学問にとどまるのではなく、我々の教育・研究を各方面にフィードバックしながら、社会とのつながりを守り続けたいと改めて感じています。

——学長はご自分の性格を分析すると、どのようなタイプですか？

高橋 前向きでしょうね。やるべきかどうかで悩んだら、どちらを選んだとしても後悔することはあると思うので、だったらやってみようというタイプです。

芝井 良いですね。私も、明治・大正期のジャーナリストである黒岩涙香の「仕事三則」に感銘を受け、「簡潔な仕事をしましょう、迅速に仕事をしましょう、痛快な仕事をしましょう」の三則をモットーにしてほしいと、初めて理事長に就任したときの挨拶でお話ししました。やるかやらないかで迷ったら、やってみる。達成感のある痛快な仕事をぜひやっていきたいですね。

●理事長 芝井 敬司



●学長 高橋 智幸

芝井敬司理事長の再任、新たに高橋智幸学長の就任が理事会で承認され、2024年10月から新たな体制がスタートした。2025年度は新学部のビジネスデータサイエンス学部の開設のほか、大阪・関西万博も開催される。大学の社会的使命、新たな教育のあり方、学生への期待などを、関西大学の新しいリーダー二人が語り合った。

◆学生の考動力で加速する万博プロジェクト

——2025年4月に大阪・関西万博が開幕します。

高橋 関西大学は大阪で生まれ、育まれた大学ですので、地元・大阪で開催される万博に協力しないことはあり得ません。また大阪・関西万博は「SDGs万博」とも呼ばれていますが、本学ではSDGsという言葉が浸透する前から人権問題や環境問題などに積極的に取り組んできました。学生時代にこれだけ大規模な国際イベントが開催されるというめったにないチャンスを生かして、学生にはお客さんとして参加するだけでなく、より深くかわかってもらいたい。そのきっかけを提供できたらと考えています。

芝井 2018年に万博の開催地が大阪に決まりましたが、招致にあたってはSDGsの実現を目標に掲げています。ですから、今回はSDGsのための万博なんです。世界の大きな課題に対してチャレンジする催しだからこそ、学生にも積極的に参加してほしいと思います。

高橋 現在、学生たちが自発的に立ち上げた「関大万博部」という団体が活動していますが、初めはそのようなコミュニティができるとは思っていませんでした。2023年度に、万博関連のイベントに参加した学生たちから「万博を大学から盛り上げていきたい！」との声が上がったことがきっかけで関大万博部が生まれ、だんだんメンバーも増えていきました。一番影響があったのは、2024年度の入学式で、芝井理事長が祝辞の中で関大万博部についてお話しくださったことでしたね。新入生が「私もやりたい！」ってどんどん集まって、百数十人にもなりました。

さらに、学内で実施された大阪・関西万博公式ボランティア説明会には600人を超える学生・生徒の参加があり、若い世代での万博への機運の高まりを感じています。



高橋 智幸——たかはし ともゆき

■関西大学第44代学長。1967年山形県生まれ。1991年東北大学工学部卒。1993年東北大学大学院工学研究科博士課程後期中途退学。2010年関西大学社会安全学部教授。2018年社会安全学部長。同年学校法人関西大学理事。2020年関西大学副学長。2024年10月より現職。学外での主な役職に、文部科学省地震調査研究推進本部専門委員、原子力規制委員会原子炉安全専門審査会及び核燃料安全専門審査会臨時委員、高槻市都市計画審議会委員など。

■対談

◆SDGsを発信、大阪・関西万博で
関西大学主体の展示が目白押し

高橋 大阪・関西万博で多くの方に見てもらいたい本学関連の企画を挙げるとすれば、まず一つはリボンチャレンジです。これは大阪ヘルスケアパビリオン内に設置される、大阪の中小企業やスタートアップの優れた技術力や象徴的な成果を発信する企画で、関西大学は大学として唯一選定されました。

他にも、催事スペースを持っているパビリオンから「ぜひ関西大学に」と声を掛けられ、複数のパビリオンで「関大DAYS」と題する期間限定の催しも行う予定です。

特設サイト「関大万博GOTO2025」を見てもらおうと分かりやすいと思いますが、本当にさまざまな企画が進行していて、正直に言うとも全部は把握し切れていません。それぐらい多くの企画ができるのは、やはり関西大学の総合力だと思います。学生たちの活動を見ていると、ただ楽しいことをやっているのではなく、「自分で課題や目標を設定し、解決策を考え、行動する」という過程を踏んでいて、この経験が彼らの力を高めているのが分かります。

大阪・関西万博の会場で、本学を卒業した51万人の校友の皆さんにも「最近の関西大学はこんなことをやっているのか、頑張っているなあ」と思ってもらえるようなものにしたい。

母校を応援したくなるきっかけ
としても重要だと思っています。

関大万博GOTO2025
ウェブサイト



◆ビジネス分野のデータサイエンスを学べる新学部

芝井 2025年4月から新学部「ビジネスデータサイエンス学部」が開設されます。ビジネスデータサイエンス学部については、前田前学長のもとで基盤ができて上がり、高橋学長(当時は副学長)にもご尽力いただきました。新たな学部を検討する中で、設置場所についての課題がありました。千里山キャンパスはすでに最大限活用しているため、これ以上はなかなか学生数を増やせない。新学部の規模を縮小すべきかの議論もありました。

しかしちょうどその時期に、新たなキャンパスのお話を受けました。元は武田薬品工業の研修所で、甲子園球場二つ分の広い土地。設備も充実していて、千里山キャンパスにほど近い立地で、工夫すれば一体的な運用ができるなどの条件が揃っていました。何度も議論を重ねた上で理事会で認めてもらい、2023年10月に「吹田みらいキャンパス」を開設することになりました。2024年4月には国際学生寮がオープンし、来春からはビジネスデータサイエンス学部の拠点としてスタートを切ります。

高橋 AIやデータサイエンスはいまや文理を問わずどの分野でも必要なものですから、関西大学では全ての学部を対象に「AI・データサイエンス教育プログラム」としてカリキュラムを開講し、数千人の学生が受講しています。

ではなぜ新たに学部を作ることになったのかというと、ビジネス力とデータサイエンス力の両方を兼ね備えた人材が今必要とされているからです。ビジネスにデータは欠かせません。しかし現代社会において、そのデータを綿密に分析し、知見を得て、戦略を練っていける人材が不足しています。先ほど申し上げたように

社会の要請に敏感に感じながら、やるべきことはきちんとやっていく。必要とされることに對し、賢く検討しながら、決断していく。そういう存在感のある大学でありたいです。

関西大学は実社会とのつながりを大切にしていますので、そうした社会のニーズに応えられる人材を送り出すことを目的として、ビジネスデータサイエンス学部を作りました。この学部では「実践」を重視し、1年次から実習や演習を豊富に盛り込んだカリキュラムを予定しています。

芝井 ビジネスデータサイエンス学部は多くのご支援があって文科省からの認可を受けることができました。政府が実施する「大学・高専機能強化支援事業」にも採択されましたが、実はその支援プログラムができる前から、本学では新学部構想に取り組んでいました。その意味でも時宜に合った取り組みだったのかもしれませんが。既にデータサイエンスの名前を持つ学部は他の大学にもありますが、吹田みらいキャンパスを拠点としたことで入学定員を350人に設定することができ、これだけ大きな規模のところはないはずです。

ビジネスデータサイエンス学部
ウェブサイト



◆グリーンエレクトロニクス工学科(仮称・設置構想中)が
2026年4月に開設予定

——社会の要請に応えるということでは、2026年度システム理工学部開設予定のグリーンエレクトロニクス工学科もありますね。

高橋 グリーンは「環境」を意味していて、エレクトロニクスは「電子工学」。要するに「環境に配慮した電子工学科」です。この学科の大きなキーワードとして「半導体」があります。

かつては日本の半導体産業は世界的に大きな力を持っていまし

たが、今では韓国や台湾などの新しい企業も参入し、日本の国際的なシェアは縮小しています。しかし日本の半導体製造技術においては、未だ世界をリードする高い技術力を持っていて、関西大学も半導体に関する研究レベルが高い。

半導体受託製造において世界最大手の台湾企業TSMCが2024年に熊本に工場を作り、北海道でも国内半導体企業ラピダスによる新工場建設が進められているように、国内外から半導体関連の大型投資が進んでいます。設備投資が進むということは、人材が必要になってくる。半導体技術者の不足はもう始まっています。本学には半導体技術に関する教育・研究の素地があるわけですから、それらを活用して、しっかりと社会の要請に応えるべく、新学科の創設を目指しました。

学生たちには実践力をつけてもらえるよう、実習に重きを置いており、その一例がクリーンルームです。クリーンルームは研究大学ならどこでも持っていて、本学にもあります。ただしそれらは研究用であって、普段の実習で使うことはまずできません。しかし、グリーンエレクトロニクス工学科の開設に向けて、学生が普段から実習で使えるクリーンルームを作る予定です。これは、噂を聞きつけた文科省の担当者が話を聞きに来るぐらいすごいことです。企業の方も、クリーンルームで実習を積んだ学生なら、ぜひうちに来てほしいとおっしゃっていました。

グリーンエレクトロニクス工学科
(仮称・設置構想中)ウェブサイト



芝井 いわゆる座学だけでは、もう大学教育はもたない。チームで学ぶ、対話の中から知識を得る、実習を通じてモノとの対話の中で

チャレンジに大小はないから、まず自分の目の前にあることに挑戦してもらいたい。その一歩が次のステップにつながるだろうし、経験や達成感にもなると思います。

スキルを身に付ける、現実社会との接続を考える、そういったことが、大学教育の中でトータルに設計されていることが大事だと思います。

◆社会の要請に敏感に。大学もまた挑戦し続ける

高橋 学生たちのさまざまな取り組みを見ると、彼らが挑戦することに面白さを感じているのが分かります。挑戦をすれば、失敗もする。失敗で立ち止まるのではなく、なぜ失敗したか、どうすればいいかを考えてまた次の挑戦へと、学生が逞しく成長する姿はもう見えて楽しい。ただ、チャレンジするきっかけを探して足踏みしている学生も多いように感じています。チャレンジに大小はないから、まず自分の目の前にあることに挑戦してもらいたい。その一歩が次のステップにつながるだろうし、経験や達成感にもなると思います。私たちもいろいろなきっかけ作りをしていくので、ぜひそれらも活用して挑戦を始めてもらいたいと思います。

芝井 大学時代は、その後の長い人生のベースができて上がる時期だと思っています。その大切な時期にいる若者が3万人もいる場所であることが、関西大学の大きな特徴でしょう。その中でチャレンジし、努力し、考え抜いて、失敗したり、達成感を得たりする。そういう経験を積み重ねることが、人の成長につながっていきます。私たち関西大学は、いつもそういう場所でありたいという思いを強くしています。そのためには、大学もまたチャレンジしないといけない。社会の要請に敏感に感じながら、やるべきことはきちんとやっていく。必要とされることに對し、賢く検討しながら、決断していく。そういう存在感のある大学でありたいです。

LEADERS NOW!



関大に行ったから お笑いができた

——飽きが来ない大学生活 4 年間

●吉本興業所属 芸人

ジャルジャル

後藤 淳平さん — 経済学部 2006 年卒業 —

福德 秀介さん — 文学部 2006 年卒業 —

ネタ 8,000 本公開を目標に毎日配信する YouTube チャンネルの総再生回数は 10 億回超え。コロナ禍を逆手に取り、独特の世界観でネタを披露するジャルジャルの後藤淳平さんと福德秀介さんは関西大学での 4 年間をどのように過ごしてきたのか。関西大学を舞台にした福德さんの小説デビュー作は実写映画化も決定。2025 年 4 月に公開を予定している。コトや小説にかける思いや、関大生だったからできたことを率直に語ってもらった。

ジャルジャル

■関西大学第一高等学校ラグビー部で知り合った二人が、関西大学在学中の 2002 年、吉本興業 NSC に 25 期生として入学。03 年 4 月にコンビ結成。2015 年、2018 年の「M-1 グランプリ」で第 3 位となり、「キングオブコント 2020」で王者に輝いた。



▲学生時代のジャルジャルのお二人

●ネタ帳感覚で YouTube 配信

——ジャルジャルが「Reed」に登場するのは 2019 年以来、約 5 年ぶりだ。その間には新型コロナウイルスの感染拡大という大きな出来事があった。二人が最も力を注ぎ、一番居心地が良い場所という単独ライブは、コロナ禍で開催できない時期があった。

後藤 満員のお客さんの前でネタができることが、いかに幸せなことなのかを実感した数年間でした。YouTube チャンネルを通じてネタを披露することはできましたが、お客さんを前に舞台でやるのと、動画で配信するのは全く別物です。

福德 お客さんの前でやる気持ち良さは分かっていました。それが当たり前ではないこと、世の中何が起こるか分からないことを痛感しました。

——YouTube チャンネル「ジャルジャルタワー」では 8,000 本を目標に、2018 年 2 月から現在に至るまで、毎日 1 本新ネタを公開している。配信にける思いは？

福德 思いみたいなものはぶっちゃけ何もないですね(笑)。毎日公開して頑張っているように見えるのですが、(収録での)稼働は月 2 回とか。楽しくのんびりやらせてもらっています。

後藤 配信の時は(リアルタイムで)反応がないのでだいぶ緩めにやっちゃいます。お客さんの前に立つと滑りたくないの……。ライブと配信のネタとは全然違いますね。

——「ジャルジャルタワー」の登録者数は 2024 年 10 月時点で約 152 万人。既に 3,000 本超の動画が公開されており、総再生回数は 10 億回を超えている。驚異的な数字だが、特に数字を伸ばそうとする欲はないそう。

後藤 単独ライブで採用されなかったネタを出している感じです。没ネタだけそのまま捨てるのはもったいないので YouTube に出して成仏してくれたら、くらいの気持ちです。真っ白なスタジオで、定点で撮影してネタをやるだけの地味なチャンネルなんで、「まあ誰も見てくれないだろうけど……」と、淡々と公開していたら、あれよあれよと見ていただけるようになりました。予想外でしたね。

福德 僕はネタ帳がないんです。(かつては)単独ライブの映像などを見て思い出していたのですが、YouTube はある意味ネタ帳の感覚でアップしていました。アップしたら思いの外視聴されてびっくりしたんですけど。ネタ帳代わりという意識は今も変わらず、欲張ることなくやっている感覚です。

——別の YouTube チャンネル「ジャルジャルアイランド」では、コロナ禍で対面形式が制限される状況を逆手に取ってオンライン会議システムを使ったネタも多数公開してきた。中でも「リモート面接でたぶん寝転んでる奴」「しょぼい就活生だと思ったらすごい奴」など、就活生をテーマにした名作が少なくない。だが、実際は二人とも就活面接の経験はゼロだ。

福德 (実際の面接がどのように行われているのか)リサーチはしないです。だからだいぶセリフがベラベラ(薄い)。

後藤 ほんま雰囲気です。僕は(ネタでは)面接を受ける側が多いんですけど、実際の就活生の緊張感っていうのは正直分らないですね。

福德 僕は面接する側なんですけど、ちゃんとした企業に勤めている義理の兄から「限りなく現実に近い。めっちゃめっちゃうまいね」って言われました(笑)。

——継続してネタを公開するのは並大抵のことではないと思うが、高校時代の二人が会ったラグビー部で鍛えた精神力も関係しているのだろうか。

後藤 ラグビーは精神力を鍛えられましたね。しんどい時に具体的にラグビーを意識することはないかもしれませんが、心の奥底ではあるかもしれない。

福德 解散するコンビの話とか聞いていると、片方がネタ合わせを嫌がるということもあるんですけど、僕らはネタ合わせを嫌だと思ったことは今まで一度もありません。ラグビーの練習をやっていたお陰だと、大げさでもなく思いますね。

LEADERS NOW!

●舞台は関大 恋愛小説が映画化

——福德さんは2020年に小説デビュー作『今日の空が一番好き、とまだ言えない僕は』(小学館)を発表した。あくまでフィクションの恋愛小説だが、主人公は関西大学に通う大学生という設定だ。

福德 (小説の舞台は)最初は関大ではなく、ずっと架空の大学という設定で書いていたんです。ただ編集者に「大学のキャンパスのイメージあるの? 図面は書いているの?」って言われて、(架空の大学では)それは無理となり、実際に行っていた関大を後から練り込んでいった感じです。

後藤 福德が「近い人間に読まれるのが恥ずかしい」と言うので、僕は読むのはちょっと控えています。

——小説は、若者の読書離れに歯止めをかけようと関西大学の学長が大手書店とコラボした企画「新入生に贈る100冊」(2024年度版)にも選ばれている。

福德 しょせん物語で、あくまでも設定が関大というだけなんで



後藤 淳平——ごとう じゅんぺい
■1984年、大阪府生まれ。2006年、関西大学経済学部を卒業。

大人になってから大学に入る人の気持ちが今はすごく分かります。今もう一度、前のめりに授業を聞きたいという気持ちがあります。

すが、人間が「命」に直面したときの僕なりの本音を書きました。幸せな日々は突然ピタッと止まったりするのを意識しながら今を大切にしてもらえたら、という気持ちがあります。

——さらに、小説は大九明子監督によって映画化され、2025年4月に公開される。一足先に試写を見た感想は?

福德 めちゃめちゃ良い映画だったので驚きました。映画化が決まったという話をもらった時は「微妙な映画ができるかも」みたいな焦りがあったんですけど、監督・脚本が大九さんに決まってから「もしかしたら良い映画になるかも」って思いました。

——小説では冒頭の「雲は空にしかいられない」をはじめ、主人公の男子大学生・小西が亡き祖母からかけられた格言めいた言葉が随所にちりばめられているのが印象的だ。だが映画ではそれは影を潜める。

福德 大九さんとの初めての打ち合わせの時に(そういう言葉は映画では使わないという点で)一致しました。大九さんが「格言系は小説だとしっくりくるんですけど、映画では伝わらないですよ」と言われ、腑に落ちるものがありました。

●大学生活は滑り出しが大事

——二人にとって大学の思い出といえば何だろうか。

後藤 ほとんどがネタ作りしていた思い出で、授業の記憶が薄いですね(笑)。

福德 私は授業に関しては最初、フランス語は熱心だったんですが、難しすぎて苦勞しました。心理学と哲学以外は正直なところ、単位を取るために出席していました。ネタ作りは片方に授業があると、授業がない方が必死で「サボろうぜ!」と誘いだすことはありました。僕は比較的心が強くて、誘いに乗らず「ごめん、授業行くわ」ということがあったんですけど、後藤は何回も口説き落とせて授業をサボらせました(笑)。

後藤 だから授業の記憶が薄いのかもかもしれない。

福德 関大での学生生活は楽しいことが多すぎて、僕らもそうなんですけど遊びに熱中しちゃう学生も多いと思うんですね。キャンパスの中で信じられないぐらい遊びましたし、4年間飽きることがなかった。

——関西大学のおおらかな雰囲気を満喫していた二人。でも卒業した今だからこそ、分かることがある。

福德 大学を卒業することが目的で入学する人もいるかと思うんですが、授業に関しては積極的にならないと100%楽しむことはできない。意味が分からない講義もある中、僕は哲学と心理学だけは妙に面白かった。日常の当たり前のことを理論立てて説明するのが面白かったです。熱心に聞いたら面白い授業がいっぱいあったんだろうなって、今になって後悔することはありますね。

後藤 大人になってから大学に入る人の気持ちが今はすごく分かります。当時は「何でこのおじいさん、もう一回大学に入り直して授業を受けているんだろう?」って思っていましたが、僕は経済学部でし

「(小説は)人間が「命」に直面したときの僕なりの本音を書きました。幸せな日々は突然ピタッと止まったりするのを意識しながら今を大切にもらえたら、という気持ちがあります。」



福德 秀介——ふくとく しゅうすけ
■1983年、兵庫県生まれ。2006年、関西大学文学部を卒業。

“

たが、今もう一度、マクロ経済学、ミクロ経済学、現代資本主義論とか、前のめりに授業を聞きたいなという気持ちがあります。でも「後々そういう気持ちになるから今のうちから興味を持って授業を受けたほうが良いよ」って言われても(学生には)むちゃな話ですけどね。

——逆に二人とも関大に行っていなかったらできなかったことは?

福德 (高校生の頃)僕らは正直、大学に行かないつもりで「大学

行かずにお笑いやろう」って二人で決めたんですけど、お互いの親同士が電話で「絶対に行かせましょう」という話をしているのが聞こえてきて、無理やりみたいな感じで大学に行くことになりました。でも、大学に行っていなかったらお笑いはできていなかったと思うんです。(生活のために)バイトもそんなにしっかりしなくてよかったし、ネタ合わせの環境もありました。大学に行くことによってできることが実は増える。

——先輩として、関大を目指す高校生や現役の大学生に伝えたいことがある。

後藤 (相方以外の)友達がゼロだった僕が言っても説得力ないと思うんですけど、友達を作ってほしいですね。ドラマに出てくるようなキャンパスに、一人ぼっちでいると寂しくなっちゃうんですよね。サークルなりクラブ活動に所属して話し相手を1人でも作ることは大事かもしれないです。そうしないと情報が回ってこない。僕は情報ゼロで試験に臨んでいました。友達がいればノートをコピーし合えますけど、僕はそれができなかった。1年次生の滑り出しは大事ですね。大学生活は大いに楽しんでもらいたいんですけど、留年はしないように(笑)。

福德 滑り出しは大事なんですけど、そこで頑張りすぎてしまう人もいる。結局はほんまに仲良い人としか仲良くなれない。絶対に無理はしないほうが良いです。ありのままの姿で大学生活を楽しんでほしいです。

●ライブで息抜きしてほしい

——コロナ禍も収束し、再びお客さんの前でライブができるようになった二人。最後にジャルジャルとしての次なる目標を聞いてみた。

福德 年に2回開いている単独ライブをやり続けられたら良いなと思います。

後藤 ライブ以外のことをやるにしても、全部が単独ライブの集客につながるように、という意識で活動をしています。やっぱりライブにお客さんが来てほしいので。

福德 大学生活が終わって社会人になると「思っていたのとちゃうな……」と感じることもあると思います。そんな時こそジャルジャルのコントを見て、1秒でも何かを忘れられる時間ができればうれしいですね。「笑え」とは言わないので、嫌なことを忘れられる時間をこれからも作っていきたいです。

後藤 いろいろと忙しいことはあると思うんですけど、隙間を見つけて僕らのライブに来て息抜きをしてくれたらうれしいです。

【今日の空が一番好き、とまだ言えない僕は】



本学文学部卒業生の福德秀介さんが2020年に発表した初めての小説で、小学館から刊行された。主人公の小西徹は銭湯でアルバイトする関西大生で、同じ教室で学ぶ桜田花と出会う。友達の少ない二人は急速に接近するが……。関西大学では学長らが選ぶ「新入生に贈る100冊」にも選ばれ、若者の間でよく読まれている。映画は大九明子監督が脚本も担当し、小西を萩原利久さん、桜田を河合優実さん、という注目の人気俳優がキャスティングされた。2024年4月に関西大学千里山キャンパスなどがロケ地として使用され、多くの学生・教職員がエキストラで出演するなど、大学も全面的に協力している。10月の東京国際映画祭に出品。全国の映画館で2025年4月に公開予定。

◀©福德秀介『今日の空が一番好き、とまだ言えない僕は』(小学館 2020年)

LEADERS NOW!

日本酒造りの可能性を追って

若い杜氏と経営者の挑戦
——佐賀・光栄菊酒造——

●光栄菊酒造株式会社 杜氏

山本 克明 さん —経済学部 2001年卒業—

光栄菊酒造株式会社 取締役

田下 裕也 さん —文学部 2006年卒業—



JR 佐賀駅から車で20分ほど。佐賀県小城市の、田んぼの広がる中に「光栄菊酒造」はある。明治時代からの歴史ある酒蔵で、昔ながらの建物の造りは風情と趣がある。

フルーティーな甘さと酸味、すっきりとした味わいが特長の佐賀の日本酒「光栄菊」。2006年の廃業後、2019年に新体制で再スタートを切った光栄菊酒造の杜氏・山本克明さんと、取締役・田下裕也さんは共に関西大学の卒業生だ。大学卒業後すぐに酒造りの道に飛び込んだ山本さんと、NHKディレクターを経て30代で酒造会社経営に挑戦した田下さん。対照的な二人が、不思議な縁でつながり、注目される日本酒を生み出した。

日本の「伝統的酒造り」は、2024年12月、ユネスコ無形文化遺産登録が決定。その伝統がここでも脈々と受け継がれている。

が多く効率は悪かったが、「せっかく来たのだから」と酒蔵を見せてくれたり、飲ませてくれたりする酒蔵があり、「勉強になった」と言う。

滋賀県の酒蔵が職人を探しており、「よかったら来るか」と言ってくれたのが転機となった。「職人になる、と思い定めていたわけではなく、その酒蔵が営業マンを探していたらまた人生変わっていたかもしれません」。人間関係や先の見えなさに悩んで、仕事を離れた時期もあったが、次の酒蔵で吹っ切れた瞬間があり、9年間で副杜氏を任されるまでになった。南部杜氏の杜氏資格を取り、次は愛知県の酒蔵で7年働くうちに、山本さんが造る酒が評判となり、ファンがつくようになった。そのタイミングで、田下さんから声が掛かった。



●番組制作から酒造経営へ

田下さんの学生生活は「遊びとバイトと旅行の日々で、それなりに楽しかった」と言う。バックパッカーとして海外を歩き、インドで社会問題に目覚めた。写真好きの一面もあり、「仕事に生かせれば」と卒業後はNHKにディレクターとして就職。佐賀放送局を経て、東京で「クロズアップ現代」などの人気番組を作る部署に配属された。そして「サキどり」という経済番組を手掛ける中で、酒造会社取材した。日本酒と言えば「関大前の居酒屋さんで悪酔いした思い出がなく、決して得意ではなかった」と言う田下さんだが、取材先で飲んだ日本酒に「こんなにうまいのか」と衝撃を受けた。「日本酒っていいなあ、これを仕事にできたらなあ」と、いつしか「酒造会社をやりたい」と夢を持つようになった。「酒造りの経験もないのに、安定した仕事を捨ててまでやることか」と止める人も多かったが、奈良の有名な蔵元が「ロマンありますやん、手伝いますよ」と言ってくれたのが決定打に。新規参入の難しい業界だが、酒造りをスタートさせるため譲ってもらえる酒蔵を探し始めた。



◀仕込みタンクに入った日本酒の仕上がりを確認する山本さん(左)と田下さん
▼田んぼに囲まれた自然豊かな場所に位置する「光栄菊」の酒蔵

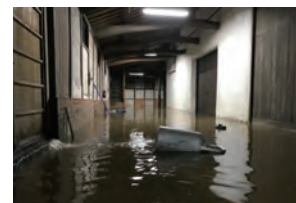


その矢先、手伝ってくれるはずだった蔵元が急逝。途方に暮れていた時、一緒に会社を立ち上げた日下智氏(光栄菊酒造現社長)が、「山本さんが造ってくれないかな」と呟いた。若手杜氏として注目されていた山本さんの造る日本酒にほれ込んでいたものの面識はなく、引き受けてくれるかが分からなかったが、大阪で会って頼んでみると意外にも快諾。幸運にも佐賀で酒蔵を譲り受けることができ、「光栄菊」を復活させる形で、経営者への道を歩み出した。「酒蔵って代々引き継いで経営されていることがほとんどで、一から酒蔵を立ち上げる挑戦は希少。魅力的だったんですね」と山本さんは言う。

お互いに関西大学出身だと気付いたのは活動を共にするようになってからだそう。「えっ、という感じで一瞬が止まって、本当に驚きました」。対照的な学生時代を送った二人が不思議な縁で酒造りを始めることとなった。

●豪雨災害を乗り越えて

ところが、酒造りを始めたばかりでいきなりハプニングに見舞われる。2019年に佐賀県を襲った豪雨(令和元年佐賀豪雨)でせっかく準備した酒蔵設備が浸水してしまった。何より汚れや湿気を嫌う麴室が被害を受け、全員がくぜんとした。それでも必死の思いで設備を立て直し、この年から酒造りのスタートを切った。出来上がった新酒第一号と第二号は即完売。販売開始直後から大きな反響があった。



▲佐賀豪雨により浸水した酒蔵内

それから5年。多くの酒販店が特約店に加わり、山本さんの造る「光栄菊」の味わいは各地で知られ、軌道に乗ってきた。現在、職人は山本さんを含めて6人。酒蔵の仕事はきついと言われることもあるが、山本さんは先頭に立って働き、労働環境の改善などにも取り組んでいる。

酒造りの魅力について山本さんは言う。「やはりものづくりの楽しさ。微生物相手なので、機械に任せられない難しさ面白さがあります。また一人ではできないので、チームでものをつくることの良さがありますね」。

また田下さんは「思えば、学生時代の旅行やカメラがNHKの仕事につながり、NHKでの仕事が酒造りにつながり、これまでのが今につながっている。まだ安定した仕事とは言えず不安もありますが、挑戦している今を楽しんでいます」と語った。



●酒蔵を回り、卒業後すぐ杜氏の道へ

山本さんは学生時代、あまりオープンマインドになれず、一人で思い悩むことが多かった。「なんとなく経済学部に入ってしまう、自分が何に向いているのか、将来何がしたいのか。葛藤する日々でした」。そんな時に感動するほどおいしい日本酒に出会って「これだ!」と気付いた。杜氏の高齢化や担い手不足が話題になっていた時代でもあり、「日本酒にかかわる仕事がしたい」と全国の酒蔵を訪ね始めた。

それまで悶々としていた反動か、就職活動はアグレッシブなものになった。近畿圏の酒蔵を訪ね、遠方へは青春18切符で向かう。時には野宿しながら酒蔵を回った。そもそも求人がないこと

LEADERS NOW!



プロの舞台で 輝くために

逸材ピッチャーの信念と覚悟

◎文学部 4年次生
金丸 夢斗さん

金丸 夢斗
関西大学



「侍ジャパン」での力投

2024年10月24日、関西大学野球部のエース投手・金丸夢斗さんは、プロ野球ドラフト会議で4球団から1位指名を受けた。逸材を射止めたのは中日ドラゴンズ。翌日に来学した井上一樹監督から指名挨拶を受けた。関西大学入学当初から活躍し、3年次生の時には日本代表「侍ジャパン」に選出。ドラフト会議では注目選手として脚光を浴びる中、渦中のエースは冷静沈着に先を見据えていた。

◎ユニークな練習と徹底した自己管理の賜物

1年次生でリーグ戦デビューを果たし、2年次生よりエースとして活躍し、MVPやベストナインなど数々のタイトルを獲得。着実にレベルアップを重ね、早くからプロのスカウトの注目を集めてきた金丸さん。2024年3月には学生ながら日本代表「侍ジャパン」のメンバーに選出され、先発した試合では2回を無安打無四球4奪三振と、プロ顔負けの実力を見せた。

投手としての強みは、力強いストレートとその制球力。力みのないフォームから放たれる最速154km/hの直球は、寸分違わずキャッチャーのミットに収まる。「打者の様子で、三振が取れるかどうか分かる」と言うほど、マウンドでは極めて冷静だ。

「大学ナンバーワン投手」「プロ入り確実」と評価されるまでに金丸さんを成長させたのは、徹底したトレーニングだ。「自主性を重んじる練習が自分に合っていた」と、関西大学野球部の育成方針に惹かれた金丸さんは、入学当初からユニークな強化方法を実践してきた。その一つが、ストローをくわえながら行うトレーニングで、「腹圧を意識して、常に呼吸を一定に保つことが目的です。緊張したり力んだりするような時でも、まずは呼吸を整えることで安定したピッチングが可能になります」と話す。

普段から揚げ物や、糖質が含まれる飲み物は避け、試合前は生魚、生野菜も食べないなど食事管理も徹底している。自分に必要な栄養素を検査し、栄養補給のサプリメントにもこだわった結果、現在身長は177cm、体重は77kg。下半身がどっしりとした体躯は自己研鑽の賜物だ。

◎コロナ禍で培われた高い意識



▲神港橋高校時代の金丸さん

「中学校を卒業した当時の身長は160cmに満たず、体重は50kgぐらいしかありませんでした」と振り返る金丸さん。小学校1年生から野球を始めたものの、高校までは今のように脚光を浴びる選手ではなかった。進学した神港橋高校でも1年生の秋から公式戦のマウンドに立つようになったが、決して際立った投手ではなかったと言う。しかし「速いストレートを投げたい」という目標に向かって、2年生の秋から本腰を入れて体作りに着手。3年生の春の大会に臨むべく、筋力トレーニングに励み、食事量も増やした。しかし、新型コロナウイルスの感染拡大という思い掛けない事態に見舞われる。試合や練習が中止となり、登校すら制限される状況に直面するが、金丸さんは「今できることをしよう」と、早々に気持ちを切り替えた。

コロナ禍は、毎日自分との戦いだった。「自主トレをするんですが、どこまでやれば良いのか基準が分からなかった」。朝の走り込み、午後からの筋力トレーニングも、部活動であれば監督やコーチが指針やアドバイスをくれるが、それが無い。自分の限界までやることに決め、毎日へとへとになるまで練習に励んだ。また、食事や睡眠などにもより気を配るようになり、その成果はすぐに表れた。「体も大きくなり、明らかにコロナ前とは違う感覚が身に付いていきました。速球も140km/h台を計測するようになり、コロナ禍で成長できたのは間違いないと自信につながりました」と語る。自ら課題を見つけ、自分に合った練習や生活管理に取り組む姿勢は、逆境下で培われた。

◎背中を押し続けてくれた人たち

今日の金丸さんを語る上で欠かせない人物が三人いる。一人目は、関大野球部OBで現在はアドバイザースタッフを務める山口高志さんだ。高校時代から金丸さんを見守り、「大学で成長すればプロで活躍できる」と期待をかけてきた。「現在のピッチングフォームへの変更を提案してくださったのも山口さんです。投手としての技術、人としての心構えも伝授していただきました」。プロで名を馳せた速球派投手の教えは、金丸さんの胸に深く刻まれている。

二人目は父の雄一さんだ。高校野球で審判を務めていたその背中を見て、金丸さんは野球へのあこがれを抱いた。「僕の野球人生は父とのキャッチボールから始まりました」。



▲元阪急ブレーブスの投手で恩師の山口高志さん(右)と



▲ドラフト会議での胴上げ(野球部の仲間たちと)

雄一さんは2024年に甲子園の審判を引退。ドラフト後には「良かったな。でもこれからがスタートだぞ」と、夢を叶えた息子に声を掛けた。

三人目は母の淳子さん。生活面でのサポートで金丸さんの成長を支えてきた。金丸さんの身体作りには、淳子さんの栄養を考えた食事が欠かせない。「母の作るグラタンが一番好きです」と金丸さん。「両親には感謝しかない。プロ野球選手として自立した姿を見せたい」と語った。



▲常に金丸さんを支えてこられたご両親と

◎理想の投手になるために

大学最後の1年間で72イニングを投げて自責点0、公式戦通算成績は20勝3敗、防御率0.83と圧倒的な成績を残した金丸さん。「大学で結果を残せて、仲間にも恵まれた」と振り返る。プロの世界への挑戦に迷いはないが、慢心もない。「必ず壁にぶつかる時が来る。その時に平常心で対応できるかが重要」と語る。困難を乗り越えることで成長すると信じ、「1年目から一軍で10勝以上し、日本を代表する投手を目指す」と力強い目標を掲げた。

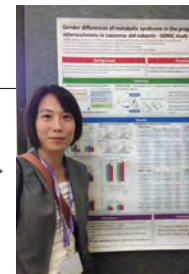
理想の投手像については「チームを勝たせる投手」と即答。「ツーアウト満塁で三振を取ったり、ワンアウト一塁で併殺にしたり、次の攻撃に良い流れを生む投球がしたい」。夢の実現に向けて金丸さんの挑戦が幕を開ける。

金丸 夢斗——かねまる ゆめと

■2003年兵庫県生まれ。神港橋高等学校を卒業し、2021年関西大学文学部に入学。小学校1年生から野球を始め、関西大学体育会野球部の投手として活躍し、関西学生野球リーグ戦では18連勝というリーグ新記録を達成。2024年には日本代表「侍ジャパン」に選出され、プロ野球ドラフト会議において、4球団から1位指名を受け、中日ドラゴンズに入団が決定した。



指導を仰ぐ山口さんの大学時代のユニフォームと写真をバックに。大学だけでなく高校の先輩にもあたる



集団の観点から高齢者の健康を研究 • Research on elderly health from a population perspective



ICTも活用し 健康寿命を延ばすまちづくり

地域密着で高齢者の生活習慣病やフレイルを予防・改善

Developing Communities to Extend Healthy Life Expectancy by Leveraging ICT

Community-based initiatives to prevent and improve lifestyle-related diseases and frailty in the elderly

◎社会安全学部 中間 千香子 准教授

• Faculty of Societal Safety Sciences — Associate Professor *Chikako Nakama*

2024年4月に、社会安全学部に着任した中間千香子准教授は、関西大学の中で医師の資格を持つ数少ない研究者の一人だ。内科医としてだけでなく救命救急の現場での経験も積みながら、公衆衛生の研究を続けてきた。今や公衆衛生の中心テーマは高齢化社会。中間准教授は多くの地域に飛び込んで高齢者と交流しながら生活習慣病や認知症、フレイル(加齢に伴う虚弱)を予防するための調査研究や、自治体などとタッグを組んで健康まちづくりの取り組みに奮闘している。

Chikako Nakama, Associate Professor who joined the Faculty of Societal Safety Sciences in April 2024, is one of the few researchers at Kansai University who is also a qualified doctor. She has pursued research in public health, while gaining extensive experience not only as an internist but also a physician working in emergency settings. The main focus of public health study today is on aging societies. While actively immersing herself in various communities to communicate with elderly people, she has been conducting research studies to prevent lifestyle-related diseases, dementia, and frailty (age-related weakness), and working closely with local governments to promote initiatives for building healthier communities.



体組成計で測定
Measurement with a body
composition monitor

縮まらない平均寿命と健康寿命の差

——公衆衛生の研究に進むまでのことを教えてください。

研究の道に進む前に臨床の経験もしたいと考えて、大学卒業後は救急車の受け入れが年間6,000件を超える総合病院などで内科医として勤務し、ER(救急外来)の現場も経験しました。ERは医学的な経験を積めるだけでなく、社会的な問題も目の当たりにできる貴重な現場でした。その後、大学院に進み、特定の集団の継続的追跡調査(縦断研究)や集団の比較調査(横断研究)をするコホート研究などで、社会の人々の健康を集団の観点からとらえる「公衆衛生」という学問の面白さを実感しました。

——現在の公衆衛生の大きなテーマは何ですか？

社会の高齢化に伴う生活習慣病などです。医学の進歩で平均寿命は延びているのですが、心身ともに支障なく日常生活を送ることができる健康寿命との差はほとんど縮まっていません。寝たきりになっても寿命を延ばせる医学の進歩も背景にあります。また、予防医学が発展しても貧困の問題があり、必ずしも全員がその恩恵を受けられていません。健康のために運動が効果的などの知識は広まっていますが、人々の行動変容にはなかなかつながりません。この2つの寿命の差を少しでも縮めることが公衆衛生の大きな課題です。

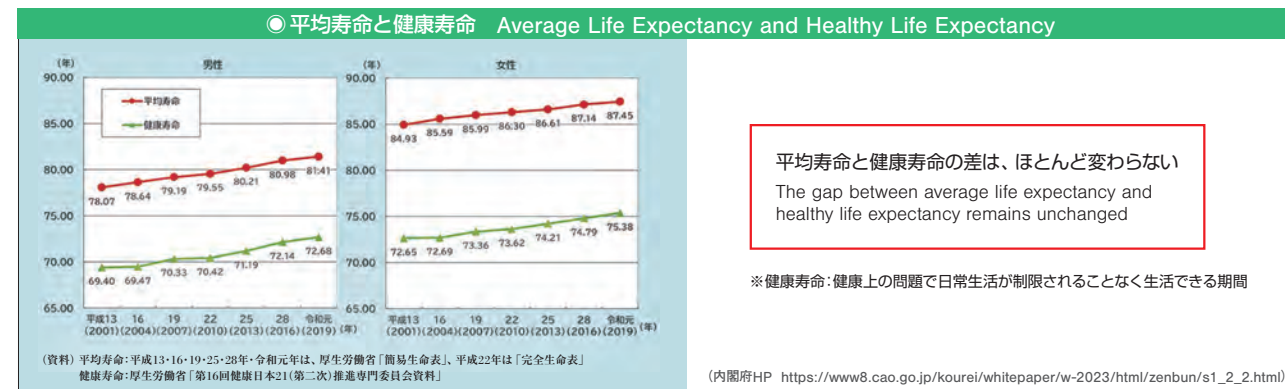
A Persistent Gap between Average Life Expectancy and Healthy Life Expectancy

— Please tell us about your path to public health research.

I wanted to gain clinical experience before pursuing a career in research. Therefore, after graduating from university, I worked as an internist at a general hospital that handles over 6,000 ambulance cases a year and also had hands-on experience in the emergency room (ER). The ER provided me with a valuable opportunity to witness social issues firsthand, as well as gain medical experience. Then, I went on to graduate school, where I discovered the joy of learning about public health, a field of research that investigates the health of people in society from a population perspective through cohort studies, including continuous follow-up studies (longitudinal studies) and comparative studies (cross-sectional studies) targeting specific groups.

— What do you think is the main focus of public health today?

Lifestyle-related diseases associated with the aging of society. Medical advances have contributed to increasing average life expectancy; however, an unchanging gap remains between average life expectancy and healthy life expectancy, which refers to the length of time a person can live without any physical or mental impairments. This is partly due to advances in medicine that have made it possible for people to live longer even if they are bedridden. Furthermore, despite advancements in preventive medicine, some people may not fully benefit from it because of the problem of poverty. Although people have become more aware of the effectiveness of exercise for health, it may not directly trigger a behavioral change among them. Narrowing the gap between these two types of life expectancy, even slightly, is a major challenge in public health.



平均寿命と健康寿命の差は、ほとんど変わらない
The gap between average life expectancy and healthy life expectancy remains unchanged

※健康寿命:健康上の問題で日常生活が制限されることなく生活できる期間

生活習慣病とフレイルが関連

——これまでの研究成果について教えてください。

コホート研究では兵庫県伊丹市と朝来市の70代と80代の計約1,000人を対象とした調査で、高齢者の生活習慣病とフレイルの関連を調べました。〈高血圧、糖尿病、脂質異常症〉と〈握力、歩行速度立ち上がり時間、転倒の既往〉との関連です。例えば血糖値が高い人の方が立ち上がり時間が遅いというデータが取れ、糖尿病があるとフレイルになりやすいことの裏付けになりました。血流の悪化や運動不足などが背景にあると推測できます。少し意外な結果としては、高血圧より低血圧の人の方に転倒が多く、握力が弱かったことです。参加者に血圧が高過ぎる人が少なかったこともあるかも知れませんが、予想外の結果でした。血圧が低いと起立性低血圧(急に立ち上がるとふらつく)などがあり転倒につながると説明できそうですが、高血圧だけでなく低血圧も要注意だということです。

Association between Lifestyle-Related Diseases and Frailty

— Please describe the findings from your previous research.

We conducted a cohort study to investigate the relationship between lifestyle-related diseases and frailty in the elderly. The study included a total of about 1,000 individuals in their 70s and 80s living in the cities of Itami and Asago in Hyogo Prefecture. The focus was on the relationship between "hypertension, diabetes, and hyperlipidemia" and "grip strength, walking speed, sit-to-stand time, and history of falls." The resulting data showed, for example, that sit-to-stand time was longer in hyperglycemic individuals, supporting the observation that people with diabetes are more likely to become frail. Poor blood flow and lack of exercise may contribute to these results. Hypotensive individuals were more likely to fall and had weaker grip strength compared to hypertensive individuals, which was slightly surprising. The results were unexpected, although the small percentage of the participants with excessively high blood pressure may have partially explained them. Falls may be attributed to orthostatic hypotension caused by hypotension (dizziness when standing up suddenly), but the findings indicated that attention should be given to hypotensive individuals, as well as hypertensive ones.

■研究最前線

——コホート研究では骨格筋量と認知機能の関連研究もされていますね。

奈良県在住の65歳以上の男性1,344人を対象にした調査では、骨格筋量と認知機能を測るMMSE(ミニメンタルステート検査)というテストのスコアを比較しました。調査の結果、骨格筋量の低下と認知機能の低下に関連があることが分かりました。骨格筋量が落ちて認知機能が低下したのか、認知機能が落ちて運動しなくなり骨格筋量が低下したのか、鶏と卵の関係のようではありますが、認知機能低下の指標として筋肉量低下の度合いを使える可能性があることが分かりました。

——こうしたコホート研究の魅力と難しさは何ですか？



▲調査研究に協力してくださった方々と
With those who cooperated in the research study

地域の人々と触れ合え、その地域差を味わえるのが魅力です。難しさは費用やマンパワー、時間がすごくかかることです。1日に50人から100人しか調査できないので1,000人規模なら10日以上かかります。都市部では人の移動が多く、長期間の追跡調査では参加者のフォローアップ率が低くなります。また、参加者集めのための名簿は自治体や町内会の協力なしには得られず、地域との信頼関係を築くことがコホート研究では重要です。

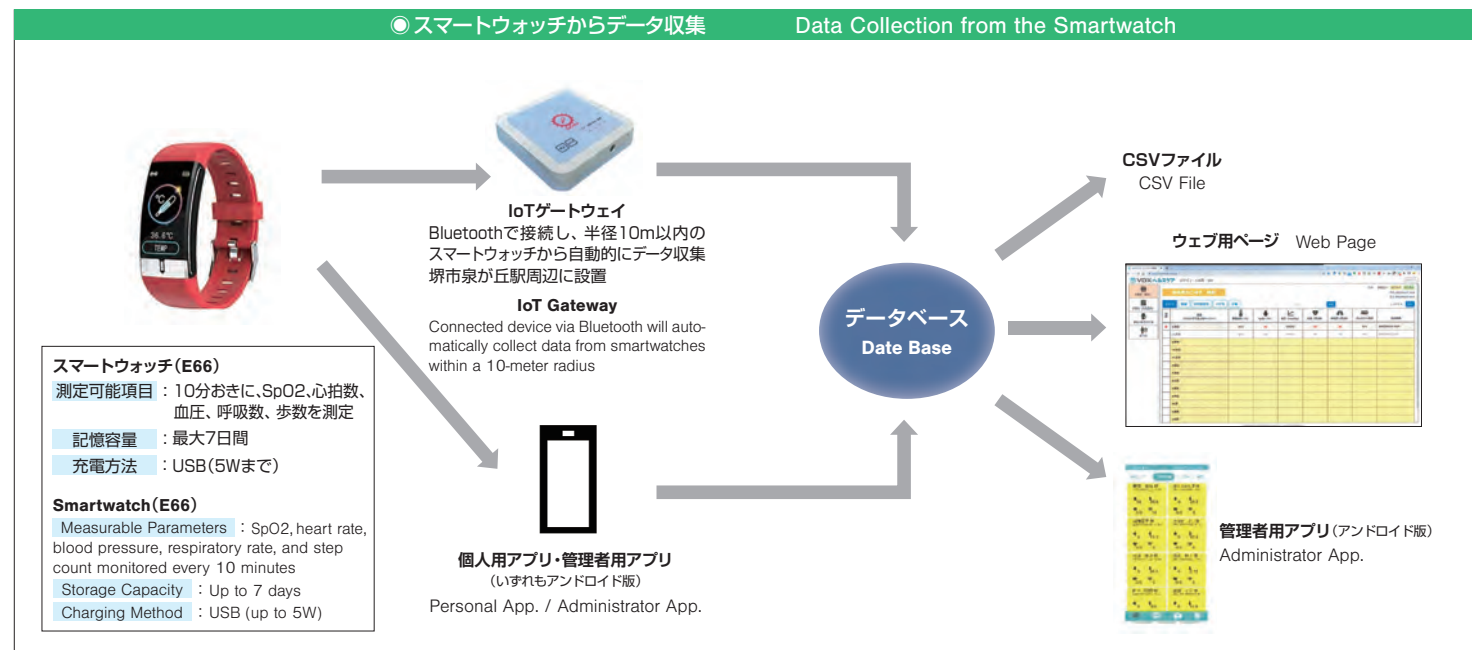
■スマートウォッチで健康状況を可視化

——最近の取り組みを教えてください。

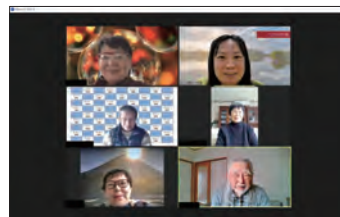
新たな研究手法としてスマートウォッチなどのウェアラブル端末を使ったデータ収集とICTを活用した健康まちづくりに取り組んでいます。高齢化の進んだ堺市の泉北ニュータウンで、孤立化しがちな高齢者らがICTを活用して健康に過ごせるようにし、介護予防や健康寿命の延伸につなげる狙いです。装着したスマートウォッチで血圧、心拍数、呼吸数、SpO2(体内酸素量)、表面温度、歩数、消費カロリー、睡眠状況を測定し、月1回参加者にそれぞれの結果を健康状況などのコメントを付けてフィードバックします。データの見える化によって少しでも参加者の行動変容を促すのです。この取り組みで睡眠時無呼吸症候群の疑いが判明したり、気管支喘息の悪化を防いだりすることもできました。また、「オンライン保健室」を開室し、医師の私や看護師、整体師、栄養管理士が曜日ごとにさまざまな相談に乗りました。参加者の中で「健康診断はあそこがいい」「かかりつけ医はあの先生がいいよ」などの情報交換のコミュニティが形成されるなどの思わぬ効果も生まれました。

——高齢者にウェアラブル端末やオンラインミーティングはハードルが高いのではないのでしょうか？

大きな課題でした。スマートウォッチの不適切な使用による不具合や故障が頻発したほか、時間が経つにつれて束縛感からその装着を嫌がって外してしまう人が増え、データ収集率の低下という問題も起きました。オンラインミーティングの接続方法が分からない人も多かったです。パスワードを家族に管理してもらって



いる高齢者もいて、最初から拒否反応を持った人に行動変容させるのは至難の業です。2025年1月から始める新たな取り組みでは、その反省から下準備やデバイスの改善などを検討しています。



▲オンライン保健室の様子 Online Health Room

——その他の取り組みはありますか？

デイサービスのレベルの機能訓練でも介護度の改善効果があり、介護費や医療費の削減につながるという共同研究や、特定保健指導(メタボ健診)でのウェアラブルデバイスの有用性の研究もしています。

■地域と密着、他分野の研究者と連携

——4月に着任されて初めてゼミで学生を教える立場になりましたね。

医学部ではゼミも卒業論文もなかったので手探りですが、ゼミ生7人を相手にとても新鮮な毎日です。協調性ややる気のある学生が多く、危機管理や福祉関係などの分野で何かしら社会に貢献できる人に育ってくれるものと期待しています。

——これからの研究目標を教えてください。

健康まちづくりなど地域に密着した研究が好きなので、これからもその分野で健康寿命を延ばしていく貢献を目指しています。医学的な専門知識を生かしつつ、他の分野の研究者と連携しながら総合的な健康まちづくりを提案していきたいです。

—— You also investigated the relationship between skeletal muscle mass and cognitive function in the cohort study.

We conducted a survey of 1,344 men aged ≥65 years living in Nara Prefecture, in which we compared skeletal muscle mass and the Mini-Mental State Examination (MMSE) scores, a test for assessing cognitive function. The results of the survey demonstrated a relationship between decreased skeletal muscle mass and declined cognitive function. The relationship seems to be a chicken and egg problem, as we cannot determine whether decreased skeletal muscle mass caused the decline in cognitive function, or lack of exercise due to declined cognitive function contributed to decreased skeletal muscle mass. However, the findings suggest that the degree of decrease in muscle mass may serve as an indicator of cognitive function decline.

—— What do you find most appealing and challenging about cohort studies like this?

I enjoy interacting with local people and discovering regional differences. The challenge is the high cost, manpower, and time required. The number of subjects we can handle is limited to 50 to 100 per day, which means it would take more than 10 days if the sample size were 1,000 or more. In addition, the follow-up rate for urban participants tends to be lower in long-term follow-up studies due to frequent mobility (people moving away) in urban areas. Considering that we cannot obtain a list of potential participants without the cooperation of local governments and neighborhood associations, building trust with the community is essential in cohort studies.

■Leverage a Smartwatch to Visualize Health Status

—— Could you tell us about your recent initiatives?

As new research tools, we have started using wearable devices, including smartwatches, to collect data, as well as applying ICT to build healthier communities. Our goal is to support elderly residents of Senboku New Town in the city of Sakai, an aging community where isolation is common, to stay healthy by utilizing ICT, which will eventually result in care prevention and extension of healthy life expectancy. They are asked to wear smartwatches to monitor blood pressure, heart rate, respiratory rate, SpO2 (amount of oxygen in the body),



skin temperature, step count, calories burned, and sleep status. The test results are shared with each participant monthly, along with comments on health status. We aim to encourage the participants to make even small changes in their behavior through data visualization. For example, this approach has helped identify suspected cases of sleep apnea syndrome and prevent the worsening of bronchial asthma. In addition, I, as a physician, along with nurses, physical therapists, and nutritionists, have provided consultation services on different days of the week through the "Online Health Room". Furthermore, the participants formed a community for information exchange, sharing details such as "recommended centers for medical checkups" and "recommended family doctors." This community was an unexpected benefit.

—— Aren't wearable devices and Online meetings too difficult for the elderly?

Yes, it was a big challenge. Malfunctions and breakdowns frequently occurred due to improper use of the smartwatches. Over time, more and more participants became reluctant to wear them because of a sense of restriction, which resulted in a decline in the data collection rate. Many participants did not know how to log in to Online meetings, and some elderly individuals relied on their families to manage their passwords. As a result, it was very challenging to encourage elderly participants who were resistant from the start to change their behavior. Learning from this experience, we have been discussing how to make preliminary arrangements and improve the devices in the new initiative starting in January 2025.

—— Are there any other initiatives?

Our initiatives include: 1) joint research to demonstrate that the level of care required may be reduced through simple functional training provided during day care, which helps save on nursing care and medical expenses and 2) research to assess the usefulness of wearable devices in specific health guidance (metabolic syndrome checkups).

■Close Ties with the Community and Collaboration with Researchers from Other Fields

—— You started a new teaching position in April. How has it been teaching seminar students for the first time?

As I have never participated in seminars or written a graduation thesis during my time at medical school, I am still finding my way around. However, working with the seven seminar students every day has been a refreshing experience. Most of the students are cooperative and motivated. I hope they will grow to contribute to society in fields such as crisis management and welfare.

—— What are your future research goals?

I would like to continue contributing to the extension of healthy life expectancy in my favorite field of community-based research, such as building healthier communities. I want to propose comprehensive health-oriented community development, leveraging my medical expertise and collaborating with researchers from other fields.

◎文部科学省「大学の国際化によるソーシャルインパクト創出支援事業」に採択

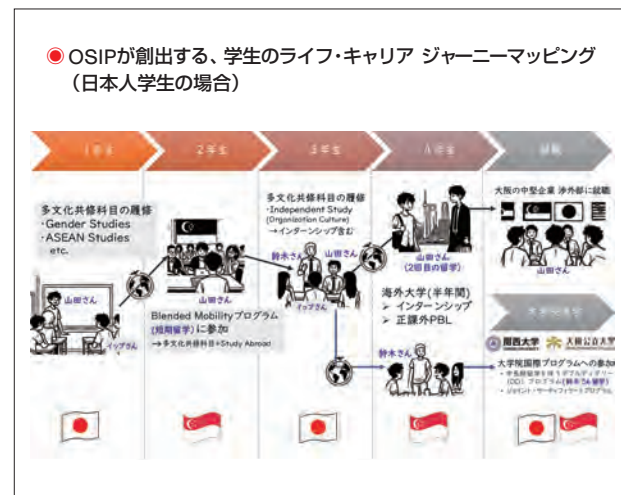
社会変革担うグローバル「人財」育成へ

OSIP
Osaka Social Impact Project

関西大学は大阪公立大学と連携して、文部科学省「大学の国際化によるソーシャルインパクト創出支援事業」に申請し、「大阪・チェンジメーカーズ：課題主導の社会的インパクト共創教育プロジェクト (OSIP)」が11月15日付で採択された。この事業は国際的な共修体制構築などを通じて、留学生の派遣、受け入れ・定着の好循環を創出し、大学の国際化を促進するのが目的で、期間は2029年度までの6年間。

このプロジェクトでは、地域企業との強いネットワークを持つ関西大学と、国際都市大阪のシンクタンク機能を担う大阪公立大学がタッグを組み、それぞれの強みを生かしながら、大阪を拠点に未来の社会を変革するリーダー（チェンジメーカーズ）の育成を目指す。異なる文化などを越えて学べる多文化共修プログラムなどを通じ、次世代の社会課題を自分ごととしてとらえ、理解を深めながら解を模索する「インシュードリブン」の意識とスキルを兼ね備えた「人財」の輩出を目指す。

具体的には、異なる言語、文化、価値観を持つ日本人学生と外国人留学生在、実際の社会課題を主体的に取り扱った学習、つまり多文化共修の機会を大幅に増やし、多様な領域で柔軟に活動できるようさまざまな能力を涵養する。また海外連携大学から「人



財層のタマゴ」の優秀な外国人留学生在を積極的に受け入れ、大阪・関西でのキャリア形成を支援する。大阪・関西万博開催控え、インバウンドも急増する大阪の特性を生かし、地域からグローバルな視野で社会課題に取り組む人財育成を目指す。

◎「関大防災Day2024 ～広がれ！みんなの安全・安心！～」を開催

近隣地域も協力！ 毎年1万人が参加する関大独自の防災啓発訓練



地震避難訓練

11月15日、学生・教職員・近隣住民ら約1万人が参加する防災啓発イベント「関大防災Day2024～広がれ！みんなの安全・安心！～」が千里山・高槻・高槻ミューズ・堺・吹田みらい・北陽・梅田の各キャンパス及び東京センターで行われた。

15回目の開催となる今年は、マグニチュード7.6(震度6強以上)の巨大地震が発生したと想定し、学生・教職員の避難から誘導、安否確認に至るまでの訓練を実施した。



応急処置体験



地震車による地震体験



炊き出し訓練

さらに、千里山キャンパスでは、エレベーターが使えない状況で歩行困難者の階段避難をサポートする非常用階段避難車体験をはじめ、消火器・消火栓体験や、避難器具体験、大学・地域協同による備蓄の非常食を用いた炊き出し訓練など、民間企業や地元自治体、近隣住民と連携しながら、さまざまな啓発イベントが行われた。

また、吹田市危機管理室による特別講演会を千里山キャンパスにて上映。災害時における避難の心得や各避難地の機能といった、危機管理への理解や防災力の向上を図る内容に、参加者は熱心に耳を傾けていた。

JOINT x P PROGRAM

■社会貢献・連携事業／地域連携

◎関西大学にパタゴニアの「Worn Wear College Tour」が来訪

衣類を修理し、環境意識を向上 循環型社会について考えるきっかけを作る



◀ 廃材を再利用して作られたリペアトラック「つぎはぎ」

関西大学は、衣類を修理し長く使うことで地球資源を守る価値を発信するパタゴニア日本支社主催の「Worn Wear College Tour」と連携し、10月17日、千里山キャンパスでイベントを開催した。「Worn Wear」は、“壊れたら、修理しよう！”を合言葉に、「つぎはぎ」と名付けられたリペアトラックで全国の大学や専門学校を巡り、衣類の修理や修理体験の機会を学生に提供しながら、未来に向けて「責任ある消費とは何か」を共に考え、モノを使い続ける喜びを届けている。

2024年5月に開催された商学部の深澤光樹准教授ゼミによるSDGsアクションイベントなどにおいて、パタゴニアと協働して

産学連携プロジェクトに取り組んできた経緯もあり、今回のイベントが実現した。

当日は、リペアトラックの「つぎはぎ」が訪れ、傷んだ衣類の縫い直しをする「リペアサービス」や衣類の修理体験ができる「セルフリペア」、着なくなったTシャツをマイバッグに作り変える「アップサイクルワークショップ」のブースを展開。一方、深澤ゼミは「古着交換会」や2024年の夏に行ったカンボジアフィールドワークの写真展示、自分たちが開発したフェアトレード商品の販売を行ったほか、同学部の木村麻子教授ゼミによる研究展示も実施。ゼミ生たちは、訪れた人々に日頃の研究成果やゼミでの取り組みを熱心に紹介した。



1・2 リペアなどの各ブース
3 古着交換会

◎第44回『地方の時代』映像祭2024～小さな民が歴史をつくる～を開催

地域・地方からわが国のあり方を問う



11月9日～15日、「第44回『地方の時代』映像祭2024小さな民が歴史をつくる」が千里山キャンパスにて開催された。

1980年に始まった本映像祭は、「地域・地方からわが国のあり方を問う」を基本テーマに、優れたドキュメンタリーや映像作品を顕彰するもの。初日には贈賞式が行われ、名古屋テレビ放送が制作した『メーテレドキュメント 掌で空は隠せない～1926木本事件～』がグランプリを受賞した。本学からは「市民・学生・自治体部門」で、社会学部の齊藤潤一教授ゼミの『家族のかたち～母と僕と、初めての父～』と『弱みが強み』の2作品が奨励賞に選ばれた。その後、フォトジャーナリストの石川文洋氏による記念講演『86歳、元・戦場カメラマンが見つめ続けるふるさと沖縄』をはじめ、グランプリ作品の上映会、シンポジウム『阪神・淡路大震災30年いのちを守る災害報道～地域に根ざしたメディアの挑戦～』が行われた。



▲贈賞式の様子



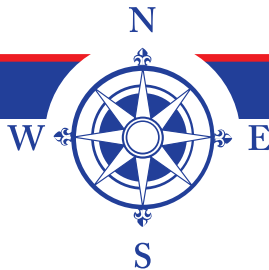
▲フォトジャーナリストの石川文洋氏による記念講演

また、翌10日にはワークショップ『大学生・高校生の映像制作～私たちの映像表現を探して～』『石丸現象にヒントあり!? 地域メディアの生きる道』が実施され、13日には特別上映会なども行われたほか、会期を通して、グランプリ受賞作品をはじめ、入選した38作品及び一次審査以上を通過した120作品が上映された。

さらに、30日には関西大学東京センターにて「グランプリ受賞作品を語る会」も開催され、制作者や関係者が上映された作品に関して熱く語り合った。

KANDAI

■関大ニュース



NEWS

第47回関西大学統一学園祭を開催



11月1日～4日、第47回関西大学統一学園祭が千里山キャンパスにて開催された。今年度のテーマは、史上最偉大の学園祭を目指す「祭大火力^{さいだいかりよく}」。活気溢れるステージ企画や教室企画、179店舗の模擬店も並び、連日、キャンパスは熱気に包まれた。また、最終日には関西大学を舞台にした小説『今日の空が一番好き、とまだ言えない僕は』の映画化を手掛けた



熱気に包まれた
後夜祭の様子



大九明子監督を招き、悠久の庭メインステージでトークショーを開催。その後の「後夜祭」は応援団によるパレードで始まり、バンド、ダンスのステージなども行われ、華々しいフィナーレを迎えた。

関大クラフトビールお披露目の乾杯イベントを実施

10月20日、千里山キャンパスで行われた関西大学校友総会にて、関大万博部「関杯プロジェクト」チームを中心に開発した関大オリジナルクラフトビールの乾杯イベントを実施した。



完成したクラフトビールの原料の一部は、今年3月の卒業式の日に植えた関大産ホップを使用しており、企業と連携しながら「ブリュープロジェクト」として推進。収穫や醸造も学生が手掛け、アルコール度数5%前後、ホップの苦みを抑えた飲みやすい一品を完成させた。「ブリュー」には、スクールカラーの紫紺(blue)と醸造(brew)の2つの意味がある。

体育会サッカー部の木邨優人さんが栃木SCに入団内定



(写真提供:関大スポーツ編集局)

2025年シーズンより、体育会サッカー部の木邨優人さん(政策創造学部4年次生)がJリーグ・栃木SCに選手として加入することが決定した。

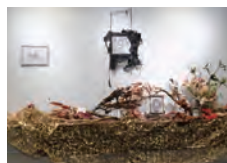
木邨さんは圧倒的な空中戦の強さと対人能力を武器に、チームを勝利へと導くディフェンダー(DF)で、攻撃の起点となる後方からの正確なパスだけでなく、セットプレーにおける得点能力も強みだ。

関西最大級のスチームパンクイベント「アリスと歯車7」初の大学開催！梅田キャンパスがダーク・ファンタジーな世界に

10月13・14日、関西最大級のスチームパンクイベント「アリスと歯車7」が、梅田キャンパスにて開催された。

「アリハグ」の愛称で知られる「アリスと歯車」は、『不思議の国のアリス』の独特な世界観と、“蒸気機関が発展を遂げた世界”を想像して描かれたSFジャンル「スチームパンク」のレトロ・フューチャーな世界観を融合させたアートイベント。地域の芸術文化の振興や若者の文化交流の促進を目的に梅田キャンパスが協賛し、今回初めて大学が会場になった。

当日は、約900人が来場。ハンドメイドマーケットを主体に、絵画・イラスト・立体作品の展示販売のほか、大道芸パフォーマンスを行うなど、出展作家やアート活動団体が交流した。



本学からの参加は「美術部 白鷺会」「大道芸サークル ジャグリま専科」「服飾サークル M2gK」の3団体。美術部は部員が手掛けた人形の展示と物販のほか、アート作家とのコラボレーション作品等の絵画を展示。M2gKは『不思議の国のアリス』の世界観をモチーフにした衣装作品を展示し、ハンドメイドマーケットにも出店。それぞれ大きな注目を集めた。また、ジャグリま専科は大道芸人 PESTORICA のパフォーマンスに参加。ジャグリングの道具「エイトリング」を巧みに使い、観客から大きな拍手と歓声を受けた。

片岡愛之助客員教授による講演会「伝統と挑戦～上方文化のこれからに向けて～」を開催



10月24日、千里山キャンパスにおいて、歌舞伎役者であり客員教授の片岡愛之助氏による講演会「伝統と挑戦～上方文化のこれからに向けて～」が開催された。

愛之助氏は、本学と同じ大阪の地で上方文化・歌舞伎を通じて挑戦を続けていることや、キャンパスのある堺市出身というご縁から、2022年度より客員教授に就任。当日は、自身の生い立ちを、写真と共に紹介したほか、気軽に足を運ぶのが難しいイメージのある歌舞伎について、さまざまな切り口から魅力を語った。上方への思いを語る愛之助氏の言葉に、聴講者は熱心に耳を傾け、多くの質問が寄せられた。

KANSAI UNIVERSITY SOCIAL MEDIA

